

**令和 4 年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書**

団体名 NPO 法人芸術文化振興市民ネット新庄(都道府県:山形県)

1.当該地域の情報(令和 4 年 12 月現在)

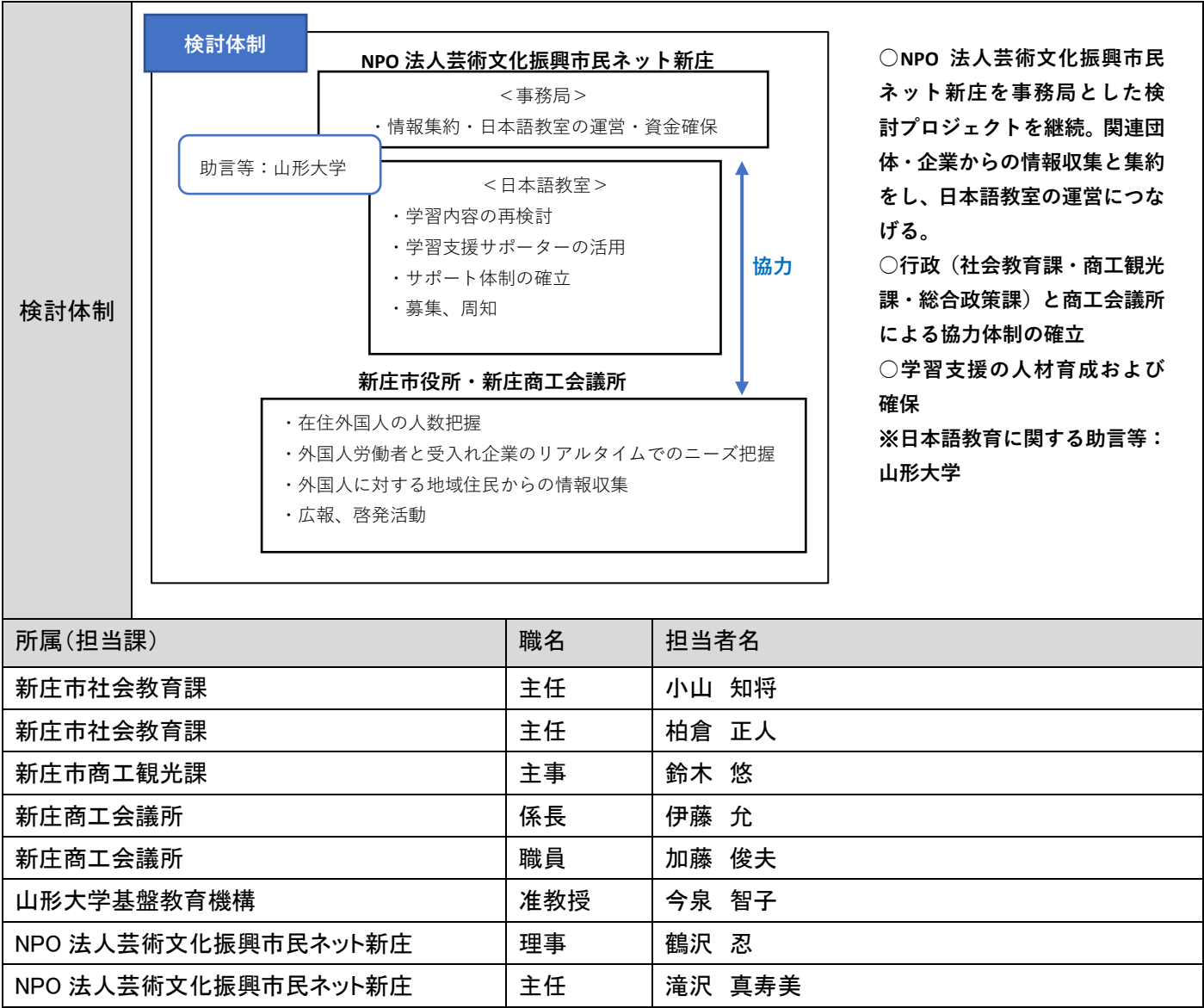
地域の課題	新庄市における外国人支援の動きは、ボランティア団体等や民間を事務局とした団体がそれぞれの目的に沿った個々の活動をしており、行政を含め、連携を図ったうえでの情報共有においては乏しく、近年、外国人労働者が増加傾向にある中で、長年変化がみられない現状である。 とくに日本語教室においては、新庄市だけでなく最上地域全体をみても僅か 2 カ所に留まっており、在住外国人数に対し学習者数は 1%と、県内でも圧倒的に低い地域である。 加えて、数年前から風水害といった自然災害の発生率も高まっており、在住外国人へのサポート体制の確立、またそれを行う人材の確保等を改めて検討し、在住外国人数の動きに対応する必要があると感じている。 また市では、インバウンド受入れも推進しており、これによる近隣町村への影響もあることから、最上地域全体での連携を図るためにも、まずは新庄市にて受け皿を整備する必要がある。
在住外国人数 外国人比率	在住外国人数:331 人(市全体 33,374 人) 外国人比率:0.99%
在住外国人の 状況	【主な国籍と人数】 ベトナム 137 人、中国 58 人、フィリピン 37 人、インドネシア 35 人、韓国 32 人、ネパール 11 人、アメリカ 5 人、ミャンマー 5 人、台湾 2 人、ブラジル 2 人 【在留資格】 永住者 91 人、技能実習 3 号 58 人、特定技能 1 号 42 人、技能実習 1 号 41 人、特定活動 20 人、技能実習 2 号 19 人、技術・人文知識・国際業務 18 人、家族滞在 16 人、教育 7 人、日本人の配偶者等 7 人 【滞在年数・在留期間などの状況】 永住者の割合が最も多く、全体の 3 分 1 を占める。しかし、技能実習生と特定技能は、全体の約半数となり、永住者のほぼ倍の人数となっている。このことから、新庄市の在住外国人数は、短期滞在者が多いことがわかる。とくに、技能実習生については、コロナ前に比べると少なくなっているが、3 年が経過し、徐々に増加の兆しも見えている。
在住外国人の 日本語教育の現状	新庄市の中心部にある新庄市民プラザを会場に、当該施設の指定管理者である NPO 法人芸術文化振興市民ネット新庄が平成 21 年より日本語教室を運営。年間約 25 回、主に平日の夜間に教室を開催している。日本語教室は地域内でもこの 1 カ所のみで、新庄市が最上地域における生活の拠点を担っていることもあり、市内に住む外国人の他、半径約 20km の近隣町村からも外国人が参加している。教室のきっかけが、農村への外国人配偶者を対象にはじめたという経緯があることから、現在でもこの教室は、在日 10 年以上の外国人配偶者が多数を占めており、日本語を学ぶという目的よりも、同じ境遇の者どうしの情報交換を主とする「サロン」としての意味合いが強いといえる。そのため、年々増加しつつある、技能実習をはじめとする在住外国人の学習ニーズに対応ができていないのが現状である。 「仕事で使える」「通院や公的な手続きの際に使える」など、今の暮らしの中で使える日本語を学ぶ教室の他、学ぶ向上心を損なわせない教室等を整備し、各々のニーズに応えられる環境をつくる必要がある。これを踏まえ、本来の主たる目的である日本語習得へ向け、最上地域の中核機関である新庄市が、先導的役割を果たすため行動をとることは当然であると考え。 また、時代とともに変化できなかった背景として、指導者不足や在住外国人の現状を把握する連携がとれていないなどの、サポート側の体制が整っていないことも大きな要因の一つであるといえる。新たな日本語教室開催を機会に、そのサポート体制を確立するため、様々な関係機関が一体となった仕組みを構築することで、ひいてはまちづくりにつながるものと考え。

2.事業の内容

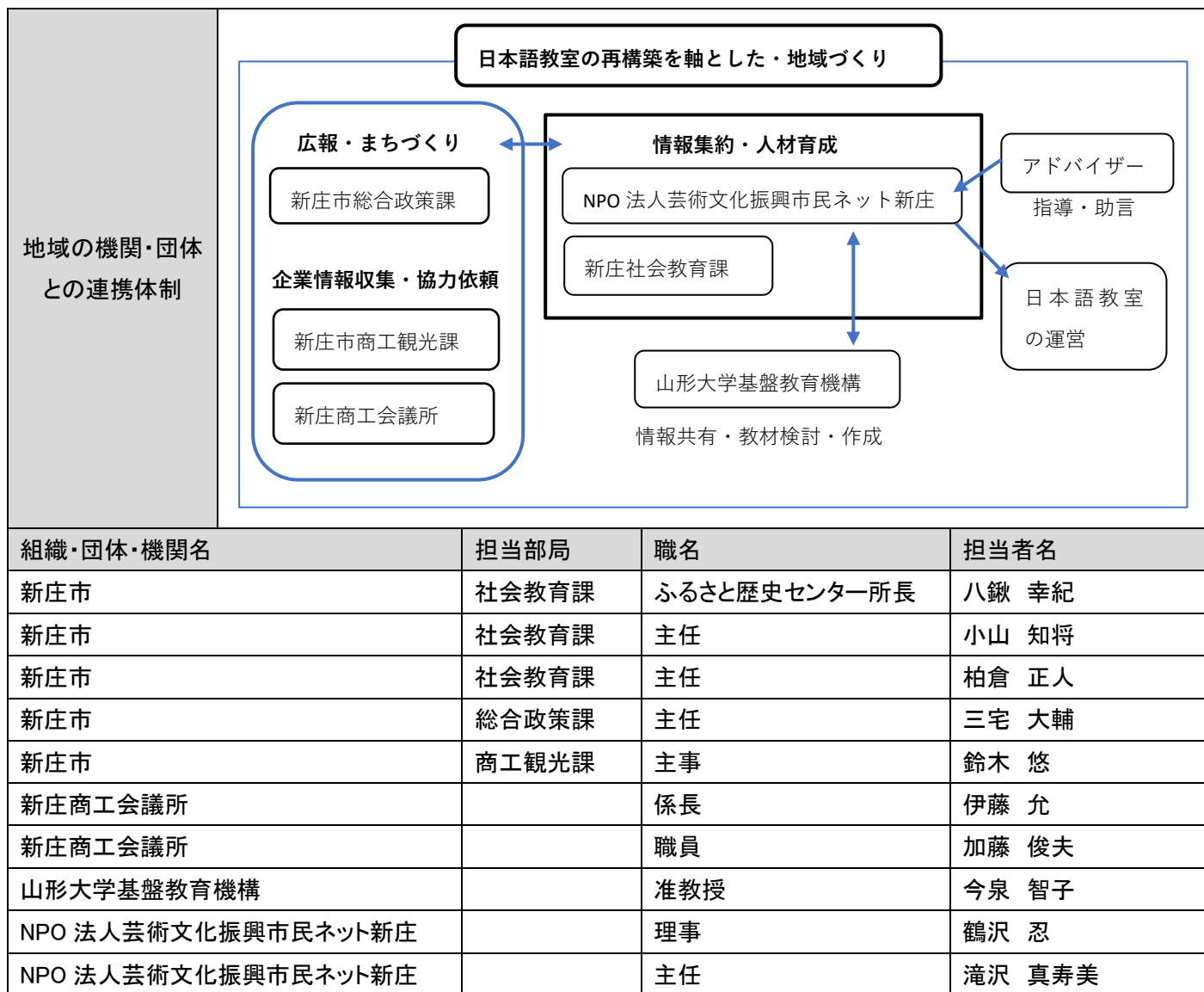
本プログラム取組年数	2 年目			
事業の目的	最上地域の中心地である新庄市における日本語教室の再検討ならびに再構築を図るため、学習支援やボランティア人材の掘り起こしと育成を継続し、日本語を学びたい在住外国人のニーズに対応できるサポート体制を整備する。また、日本語教室を地域と在住外国人とをつなぐツールの一つとすることで、交流会の開催や住民同士のコミュニケーション力の向上を図る。さらに関係機関との連携を活用し、広報・啓発といった活動を行い、外国人との隔たりのないまちづくりを目指す。			
事業の概要	、最上地域の学習の拠点となる日本語教室を、新庄市にて新たな形でスタートさせるべく、行政・任意団体等が連携を図り、外国人サポート体制の整備と、人材の育成に努める。時代の流れとともに在住外国人が増加傾向にある中、地域の現状と住民それぞれのニーズに対応した日本語教室の試行とそれに付随する予算の確保を、アドバイザー・関係機関からのご意見をもとに目指す。 ◆アンケート調査の結果から得た、日本人・外国人住民のニーズと地域の特性に合わせた新たな日本語教室の試行 ◆安定したサポート人材の確保と育成を目的とした講座の継続開催 ◆日本語学習内容の検討・作成および実践準備 ◆連携体制を持続・充実させ、情報共有や課題解決に向けた取組み、および広報・周知活動による意識改革			
事業の対象期間	令和 4 年 7 月～令和 5 年 3 月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	・ 在住外国人へのサポート体制を整備すべく、これまで連携が希薄であった行政や関係各機関によるプロジェクトチームを編成し、それぞれの分野における情報を共有することができた。 ・ 9 月～12 月にサポート人材の発掘と育成を目的とした講座を開催。1 回 2 時間の講座を月 2 回開催し、全 8 回で延べ 99 人(1 回平均 12 人)が参加した。外国人とよりよいコミュニケーションを図るためには何が必要か、どんな日本語を使えば伝わりやすいのか等を学んだ。講師には、大学や県内外で活動する国際交流団体から招聘し、参加者は先進地での取組みを学びながら、新庄市で何が必要か、自分には何ができるかを考える機会を得た。また、参加者の約半数がサポーターとして登録をするに至った。 ・ 地域住民の在住外国人に対する意識調査として、アンケートを実施。約 2 週間の期間で 549 件の回答を得た。また、外国人を雇用する企業に協力を依頼。外国人労働者に対して日本語能力に関するアンケートを実施し、55 件の回答を得た。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	鶴沢 忍	NPO 法人芸術文化振興市民ネット新庄	理事	関係機関との調整・連絡
	今泉 智子	山形大学基盤教育機構	准教授	日本語教室に関する検討
	高橋 範行	—	—	日本語教室に関する検討
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	伊東 祐郎	国際教養大学専門職大学院	教授	継続・新規(2 年目)
	内海由美子	山形大学基盤教育機構	教授	継続・新規(2 年目)
	幕田 順子	(一社)ふくしま多言語フォーラム	理事	継続・新規(2 年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1)地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2)日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和4年 4月	・関係機関への協力依頼	・関係機関への協力依頼、調整	
令和4年 5月			
令和4年 6月	・事業計画の作成	・オリエンテーション参加 ・キックオフ会議に向けた日程調整	
令和4年 7月	・キックオフ会議 ・サポーター養成講座計画	・事業計画書提出 ・サポーター養成講座内容検討、講師依頼	★事業計画について検討
令和4年 8月	・サポーター養成講座募集	・講座周知活動、内容調整 ・アドバイザー会議日程調整 ・交流会準備	

令和 4 年 9 月	・サポーター養成講座①② ・交流会開催 ・アドバイザー会議	・講座運営 ・交流会運営 ・日本語教室開始準備	★日本語教室の運営体制について検討・助言
令和 4 年 10 月	・サポーター養成講座③④ ・日本語教室の試行	・講座運営 ・日本語教室運営 ・情報交換会参加	★日本語教室の学習内容・支援方法について助言
令和 4 年 11 月	・サポーター養成講座⑤⑥ ・日本語教室の試行	・講座運営 ・日本語教室運営 ・オンラインの検討、準備	
令和 4 年 12 月	・サポーター養成講座⑦⑧ ・日本語教室の試行 ・オンライン講習 ・行政担当者会議	・講座運営 ・日本語教室運営 ・行政担当者会議日程調整 ・オンライン講習会設定	
令和 5 年 1 月	・日本語教室の試行 ・アドバイザー会議 ・市広報作成	・日本語教室運営 ・広報掲載原稿作成 ・R5 提案書作成	★これまでの取組みとサポーター活動について検討・助言
令和 5 年 2 月	・日本語教室の試行 ・関係者全体会議 ・市広報掲載	・日本語教室運営 ・R5 提案書提出 ・関係者全体会議日程調整 ・事業報告書作成 ・日本語教室広報準備	★今年度の事業について
令和 5 年 3 月	・事業報告	・事業報告書提出 ・次年度準備	

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	日本語教室						
外国人参加者について	[国籍]インドネシア 7 名 [属性]技能実習生						
参加者数 (内 外国人数)	受講者 7 名 支援者 8 名 (コーディネーター 、サポーター 0 名)						
開催時間数	総時間 28 時間			内訳	2 時間 × 14 回		
目標	日常生活に必要な日本語の理解と習得						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2022 年 10 月 9 日(日) 10:00～12:00	2	新庄市民プラザ	5	いろいろ初級 1-14	・自己紹介 ・職場に電話で休みなどの報告ができる練習	サポーター5 名 コーディネーター2 名
2	2022 年 10 月 9 日(日) 13:30～15:30	2	新庄市民プラザ	2	中級者向け文法	・自己紹介 ・文章理解と語彙を増やす	サポーター3 名 コーディネーター2 名
3	2022 年 10 月 30 日(日) 10:00～12:00	2	新庄市民プラザ	5	いろいろ初級 1-15	・病院での会話 ・問診表、薬の理解	サポーター5 名 コーディネーター3 名

4	2022年10月30日(日) 13:30~15:30	2	新庄市民プラザ	2	中級者向け文法	・宿題の答え合わせ ・文章読解	サポーター4名 コーディネーター2名
5	2022年11月6日(日) 10:00~12:00	2	新庄市民プラザ	4	いろどり初級 1-17	・訪問時の挨拶の仕方	サポーター4名 コーディネーター2名
6	2022年11月6日(日) 13:30~15:30	2	新庄市民プラザ	2	中級者向け文法	・宿題の答え合わせ ・副詞の使い方	サポーター3名 コーディネーター2名
7	2022年11月20日(日) 9:30~11:30	2	新庄市民プラザ	5	いろどり初級 1-18	・お祝いの伝え方 ・お礼の伝え方	サポーター3名 コーディネーター2名
8	2022年11月20日(日) 13:30~15:30	2	新庄市民プラザ	2	中級者向け読解	・宿題の答え合わせ ・接続表現	サポーター2名 コーディネーター2名
9	2022年12月4日(日) 9:30~11:30	2	新庄市民プラザ	6	いろどり初級 1-16	・病名を理解する ・アドバイスの仕方	サポーター4名 コーディネーター2名
10	2022年12月25日(日) 9:30~11:30	2	新庄市民プラザ	7	日本のお正月	・食べ物について話す ・年賀ハガキの書き方	サポーター6名 コーディネーター3名
11	2023年1月15日(日) 10:00~12:00	2	オンライン	6	いろどり初級 1-12	・印象の伝え方 ・料理の作り方を話す	サポーター7名 コーディネーター3名
12	2023年1月29日(日) 10:00~12:00	2	オンライン	6	いろどり初級 2-1	・出身地について話す ・詳しい自己紹介の仕方	サポーター7名 コーディネーター2名
13	2023年2月12日(日) 10:00~12:00	2	オンライン	6	いろどり初級 2-2	・料理について発表 ・服装について話す ・「どの」「あの」を理解する	サポーター7名 コーディネーター2名
14	2023年2月26日(日) 10:00~12:00	2	オンライン	6	いろどり初級 2-3	・アレルギーについて言える ・食事処での注文の仕方	サポーター4名 コーディネーター2名

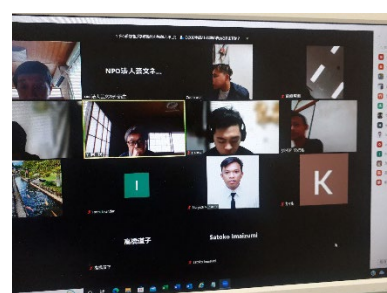
【主な活動】



10月9日の教室の様子



12月25日の教室の様子



1月15日のオンライン教室の様子

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	・冬期間の教室は、交通の便が悪くなるため、オンラインでの教室開催を準備したが、受講生よりも支援側が経験不足であった。 →サポーター向けのオンライン講習会を開催。
--------------------	---

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
------	------	----

サポーター養成講座	令和4年9月～12月(全8回)	学習支援をはじめとするサポーター人材の育成・確保を目的に講座を開催。 【内容】(月2回、2時間/回) ①出羽庄内国際村の事例紹介(講師:佐藤幸) ②異文化コミュニケーション(講師:佐藤幸) ③やさしい日本語を使って(講師:今泉智子) ④やさしい日本語実践(講師:佐藤幸) ⑤酒田市国際交流サロンの事例紹介(講師:余語美香) ⑥べにばな会の活動(講師:余語美香) ⑦日本語学習支援(講師:今泉智子) ⑧実践計画(講師:佐藤幸)
交流会	令和4年9月11日(日)	在住外国人と地域の日本人とが交流を図るため、参加者の母国料理と一緒に作り、それぞれの国の味や文化を学んだ。(山形県国際交流協会助成事業) 【参加国】中国・台湾・フィリピン・韓国・インドネシア・日本 【参加人数】20名
オンライン講習会	令和4年12月3日(土)・25日(日)	日本語教室をオンラインで行えるよう、サポーターを対象としたオンライン講習会開催。Zoomの使い方等を学んだ。
新庄市広報誌掲載	令和5年2月	新庄市の広報誌に日本語教室やサポーター養成講座について掲載

【主な活動】



サポーター養成講座の様子



交流会の様子



オンライン講習会の様子

5. 今年度事業全体について

進捗状況	・日本語学習支援をはじめとするサポーターの確保育成を目的に、9月～12月にサポーター養成講座を開催。参加者のうち3名が昨年からのサポーターメンバーとともに活動を行っている。 ・10月から新たな日本語教室を試行。コーディネーター、サポーターが教室の運営や学習支援を行っている。また、1～2月はオンラインによる教室も試行。 ・市民に対する意識づけの一環で、2月の市の広報に特集記事を掲載。
事業推進にあたり 問題点と対応策	・サポーターに日本語教室に協力してもらうにあたり、サポーターの体制や支援方法について悩んだ。 →アドバイザーに相談し、今後の進め方やサポーターの役割について直接お話しいただいた。 ・冬期の交通運休が予想より早く起きたことにともない、教室を中止することがあった。 →オンライン環境をできるだけ早めに整えた。
成果	・サポーター養成講座を修了した方々が、サポート活動に向けて前向きに行動し、ボランティアグループが設立した。同時に、グループの仲間意識も向上した。 ・サポーターの学習支援体制が明確になり、日本語教室の運営がしやすくなった。また、継続に向けても具体的な意見が出やすくなった。 ・対面とオンラインとの日本語教室を開催することで、受講者の学習意欲の継続とサポーターの経験にもつながった。
地域の関係者との 連携による効果	・行政との連携により、市広報誌に日本語教育に関わる記事を掲載。日本語教室や交流会についてまだ知らなかった市民からの問い合わせがあった。在住外国人への関心を引き出すきっかけになったと感じている。 ・地域のサポーターによるボランティアグループの設立により、日本語教室の土台ができた。今後の波及効果に期待できる。

コーディネーター の 主な活動	①体制整備のための調整・連絡(7H) ②人材育成のための調整、講座開催(42H) ③日本語教室開設のための調整および運営(36H) ④教材作成に向けた調整・検討(36H) ⑤その他(6H)（具体的な内容:オンライン講習実施）
アドバイザーの 主な助言	・サポーター養成講座参加者に対して、ボランティア活動への参加についてアプローチを早めに行うこと ・サポーターの自立や継続的な活動、スキルアップにつながるような計画をすること ・教室の運営方法や学習支援方法について明確にすること ・安定的な継続をしていくには、参加意欲の維持も必要。 ・広く宣伝する方法を検討し、周知は継続して行うこと
今後の課題	・日本語教室の安定的な運営 ・サポーターの自立を促すような活動支援計画 ・新庄市を中心とする近隣町村を含めた効果的な宣伝方法と日本人住民への意識づけ ・技能実習生を抱える企業との連携
今後の予定	・来年度の日本語教室開催に向けた日程調整 ・来年度の日本語教室開催の受講生募集および各所への周知活動 ・来年度のサポーター養成講座およびサポーター向けスキルアップ講座計画 ・日本人住民への理解を深めるための交流企画

本件担当： NPO 法人芸術文化振興市民ネット新庄